



世界へのプレゼントになろう

2015-16年度 国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
 ■会長 / 鈴木 清詞 ■幹事 / 坂本 晃 ■会報・雑誌・広報委員長 / 江松 央統
 ■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

ガバナー補佐訪問

第1150回

2015年9月15日(火) 晴 第10回
 ～ 基本的教育と識字率向上月間 ～

斉唱 我等の生業
 出席 会員 55名 (出席率算入人数 46名)
 出席 38名 出席率 82.61%
 前々回補填率 80.00% (9月5日分)
 ゲスト 西名古屋分区ガバナー補佐
 近藤 雅夫さん
 地区副幹事 加藤 令吉さん
 西名古屋分区副幹事
 浦野 廣高さん

会長あいさつ

会長 鈴木 清詞さん

皆さま、こんばんは。本日は、西名古屋分区ガバナー補佐の近藤さん、地区副幹事の加藤さん、西名古屋分区副幹事の浦野さんにお越しいただいております。

先ほど、会長、幹事、副会長、会長エレクト、副幹事の間で懇談会、続いてクラブ協議会を開催致しました。各委員会の委員長さんから今年の方針をお聞きし、それぞれの委員会に対してガバナー補佐から講評いただき、無事協議会を終わらせていただきました。

懇談会に於きましては、当クラブの抱えている色々な課題について話をさせていただいた訳ですが、どうも色々話を聞いておりますと、やはり各ロータリーで全く同じような悩みを持っており、メンバーが減ってきている事であるとか、高齢化であるとか、事業費が足りないといったような問題があり、それに対してのご助言をいただきましたし、出席やニコボックスに関しても色々な助言がありました。そういった事を活かしてこれからのクラブ運営をしていきたいと思っております。

今日は、これから卓話もあるという事で、クラブメンバー全員、色々参考にしていただいで、今年一年のロータリー活動に活かしていただきたいと思っております。



幹事報告

幹事 坂本 晃さん

- 来週9月22日は祝日の為、休会になります。その翌週は例会変更で、9月30日(水)、12時半から名鉄グランドホテルでガバナー公式訪問という事で、4RC合同で例会を開催致します。ホストクラブは東南RCです。
- 東日本大震災で遺児になった子供達の為の、専門学校、大学卒業までの奨学金として毎月5万円を贈呈するという希望の風奨学金制度が数年前からあります。また今年も各クラブに協力して欲しいという依頼がありましたので、1人1,000円ずつの寄付をお願いします。箱を回しますですのでお願い致します。

ニコボックス

- ◆ 西名古屋分区ガバナー補佐 近藤 雅夫さん
 - ◆ 地区副幹事 加藤 令吉さん
 - ◆ 西名古屋分区副幹事 浦野 廣高さん
- 過分に頂戴いたしました。

- ◆ 近藤雅夫西名古屋分区ガバナー補佐、加藤令吉地区副幹事、浦野廣高西名古屋分区副幹事をお迎えして。

新原 尚さん 田中 一雄さん 川瀬 悟さん
 牧野 好弘さん 杉山 隆秀さん 伊藤 圭一さん
 細井 俊男さん 朝比美和子さん 長尾 浅吉さん
 有川 英敏さん 佐々木 暢さん 鈴木 一博さん
 大平 明子さん 江松 央統さん 鈴木 清詞さん
 三浦 隆さん 久米 伸治さん 佐々木元彦さん
 三島多恵子さん 中西 芳子さん 山本 郁矢さん
 木下 福郎さん 三浦 和人さん 犬飼りさ枝さん

- ◆ 明日9月16日は20回目の結婚記念日です。相手がよく我慢してくれました。感謝。出田真太郎さん
- ◆ 88歳の父親に免許証を返上してもらいました。大変でした。 坂本 晃さん

本日合計 44,000円 累計 222,000円

委員会報告

- 社会奉仕委員会 委員長 鈴木 一博さん
 9月5日に地区補助金事業としてフットサルを行わせていただきました。会員の皆さまには多数のご出席をいただきありがとうございました。本日、中央

有隣学院さんよりお礼状をいただいておりますので代読させていただきます。

『この度は、フットサル練習試合にご招待いただきありがとうございました。今年でフットサルの招待は4回目となり、子供たちに大きな専用コートでフットサルをさせていただいた上、豪華なお弁当、お茶、バナナ、タオル、服をいただき、ありがとうございました。中高学年の女の子は、いただきました歴代のドライメッシュの紺白のTシャツを毎日の寝間着にしております。今年も活用させていただきます。』

また、ゆうりんだよりもいただいておりますので、回覧宜しくお願い致します。本当にありがとうございました。

ガバナー補佐卓話

西名古屋分区ガバナー補佐 近藤 雅夫さん

皆さま、こんばんは。本年度西名古屋分区のガバナー補佐を仰せつかっている近藤雅夫です。本日のガバナー補佐訪問に際しては、例会に先立って開催された会長・幹事との懇談会、及びクラブアセンブリーでは色々と御配慮いただき、又、鈴木会長はじめ役員・委員長方と和やかな中にも有意義な意見交換ができました事御礼申し上げます。



名南RCに於かれましては、本年創立25周年を迎えられるという記念すべき節目の年を迎えられる事、誠におめでとうございます。四半世紀という歴史を積み重ねこの地区の中でも有力でアクティブなクラブとなられたことは、皆さまのロータリー活動に対する熱心な取り組みの成果と会員の皆さまの努力に改めて敬意を表する次第です。25周年という節目の年を契機に会員の皆さまが気持ちを新たに更なるクラブの発展をお祈りする次第です。

さて、まずガバナー補佐の役割をお話しして皆さまのご理解をいただきたいと思っております。ガバナー補佐は英語でAssistant Governorで文字通り地区ガバナーの補佐をするわけですが、この2760地区は83のRCがあります。2760地区を8つの分区に分けて、私は西名古屋分区13RCを担当しています。

ガバナー補佐の役割を調べてみますと、①担当クラブを定期的に訪問、少なくとも四半期に一度はクラブを訪問する。②クラブの現状をガバナーに報告。③ガバナー公式訪問に向けたクラブの準備を手伝う。④クラブ目標の達成状況を確認する。等と書かれています。本日はこれらを一度で行うという事で、何かと盛りだくさんになりますがご了承いただきたいと思っております。ガバナー補佐はガバナーが率いる地区と担当のクラブのパイプ役であります、言い方を変えると“中間管理職”的な役割ですので、地区への要望など気楽に接していただければ結構かと思っております。

冒頭から申し訳ありませんが、中間管理職の役割として地区からのお願いです。10月24～25日に栄・久屋大通り公園で第3回目となります、ワールドフード・ふれ愛フェスタが開催されます。昨年までは3日間の開催でしたが、今年度は土曜、日曜日の2日間となります。チケットの購入をお願いしてお

り、当クラブでは現在のところ55枚ほどお買い上げいただいているようですが、地区としては平均で一人当たり2枚お願いしたいとのことなのでもう数十枚ほどご協力をお願い致します。チケットは一枚2,000円で内400円がチャリティーとなりますので、よろしく申し上げます。併せて企業の協賛広告もお願いして欲しいとのことで、申込書は地区より既にクラブ事務所に送付されていますので宜しくお願い致します。最終日の10月25日はロータリー・ジャパンデーとなりますので是非とも皆さまのご参加をお願いします。

さて、今年度のこの地区のガバナーは加藤陽一さんで、瀬戸RCの方です。1944年のお生まれで、ロータリーの入会は1996年ということです。ガバナーになれる方ですから、ロータリーの知識や情熱はそのロータリアンにも負けないものをお持ちですが、何よりも気さくな人柄で大変温かみのあるガバナーであります。ガバナー補佐は中間管理職と申し上げましたが、一般的に中間管理職は無理難題を言う上司と言うことを聞かない部下との板挟みで悲哀を味わうのがイメージですが、私の場合は加藤ガバナーという大変良い上司に恵まれ、担当のクラブも紳士ばかりで非常にハッピーな補佐だと喜んでおります。

さて今年度、加藤ガバナーが掲げられた地区方針は「ロータリーの原点に学ぶ」、サブタイトルとして「友情と寛容の輪を広げよう」です。地区の具体的な行動方針として、

- ①高潔なロータリアンを目指し、常にバッヂを着用する。
- ②例会に積極的に出席し、ロータリー活動を楽しむ。
- ③自主的クラブの運営。
- ④会員増強・退会防止。
- ⑤地区の改善・改革。

の5点を掲げられています。詳しいお話は、9月30日のガバナー公式訪問時に加藤ガバナーから直接その思いをお聞きいただきたいと思っております。一方、今年度のRI会長はスリランカの方でK.R.ラビンドランという方で、今年度のテーマとして「世界へのプレゼントになろう」です。強調事項としては、

- ①ポリオ撲滅。
- ②人道的奉仕を高める。
- ③ロータリーのイメージと認識を高める。
- ④オンラインツールの利用。

というものです。私の個人的な感想ですが、加藤ガバナーはこうしたRI会長のテーマを受けて、敢えてという言葉を使わせていただきますが、もう一度ロータリーの原点が何かを皆で考えようという地区テーマを出された点に加藤ガバナーのロータリーに対する思いと申しますか、危機感があらわされていると思っています。

ガバナー補佐研修などの地区の会議で加藤ガバナーが特に強調されるのは、ロータリアンにとって例会出席がすべての原点であり例会に出席する事でロータリー活動を楽しむ事と、ロータリーの基本は一つ一つのクラブであって、クラブが自主的な活動を行うために地区があり、RIがあると言われている事です。

私は今年でロータリーの在籍が29年目に入りますが、入会したころに比べるとロータリーも随分変わって来たなという感じがしています。入会当時先

輩のロータリアンから繰り返し聞かされたのは、出席は100%が基本で、例会に出られなければ必ず他のクラブでメーキャップをする。ロータリーで役などを頼まれたら答えは二つ。「はい」か「イエス」でノーはない。ロータリーの奉仕は職業を通じて社会に奉獻する事で、個人一人一人の奉仕の精神が基本といった事等々、今思えばロータリーの原理のようなものを聞かされていました。

話は変わりますが、皆さま俳句の用語で「不易流行」という言葉をご存知だと思います。「不易」とは伝統的に変わらないもの、「流行」とはその時々の変化の事で、松尾芭蕉が俳句に取り入れてこの「不易」と「流行」が同時にあるものだという事です。ロータリーに於いても、ずっと継承して行かなければならないものがある一方で、その時々々の社会情勢の変化に対応していくという両面があるのではないのでしょうか?そこで、ロータリーにおける「不易流行」とは何か、私なりに考えてみました。

ご承知のようにロータリーの目的は4つあり、第1に知り合いを広める事によって奉仕の機会とする、第2に職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアンの各自の職業を高潔なものにする、第3にロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において、奉仕の理念を実践する、第4に奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて国際理解、親善、平和を推進する事、ですが、それを実現するための活動としてクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕と国際奉仕の四大奉仕として位置付けられています。

この4つの奉仕活動の中で、まず「不易流行」の「流行」、つまりその時々々の社会情勢の変化に対応していく部分としては、対外奉仕活動である社会奉仕と国際奉仕の分野ではないかと思えます。ロータリーの創立者であるポール・ハリスの言葉に「ロータリーが可能性を実験する為には、常に変化し、場合によっては大きな変化をしなければならない」という言葉があるそうです。

対外的な奉仕活動である、社会奉仕と国際奉仕は時代の変化の中でその時々々に社会から要求、あるいは期待される奉仕活動が変わって行きます。ロータリーが社会の変化の中で変わって行かなければならない、あるいは変わらざるを得ない「流行」の部分はこの2つの奉仕分野ではないかと思えます。会員歴の長いロータリアンの方が最近のロータリーは随分変わってしまったと言われているのを時々耳にしますが、このように考えれば、RIが対外奉仕活動に於いて従来と方針が変わり、団体による奉仕、継続的奉仕プロジェクトを推進している現状に一定の理解ができるのではないのでしょうか。

一方で「不易流行」の「不易」の部分、つまりロータリーがロータリーである為に変わってはいけない部分はどこかと申しますと、言うまでもなく残りの二つの奉仕活動、即ちクラブ奉仕と職業奉仕の部分こそロータリーの変らぬ原理があると私は思っております。ご承知のように、1905年にRCが設立されたときは親睦と会員同士の相互扶助を目的としたクラブで、奉仕の概念は後から出てきたものです。クラブ内の親睦がしっかりと確立されて初めて他の奉仕活動ができるのであって、親睦の基本は云

うまでもなく例会への出席と、一業種一会員という原則にあります。一業種一会員という職業分類の制約は現在では大幅に緩和されていますが、今でもその精神は生きていると私は思っています。

加藤ガバナーが地区の行動指針として、例会への積極的な出席を強調されるのも、例会に出席してロータリー活動を楽しむことで会員同士の親睦が深まると考えておられるからだと思います。更にロータリーが他の奉仕団体と全く異なるのは職業奉仕という理念を持っていて、会員の職業に高い倫理観を求めていることです。ロータリアンは自らの職業における倫理基準を高め、職業を通じて社会に貢献することが求められています。

繰り返しになりますが、ロータリーに於いて変えてはならない「不易」の部分とは、会員同士の親睦と会員の職業における倫理観を高めていくこと、つまりクラブ奉仕と職業奉仕の2つの分野にあって、この2つの奉仕は今後も変わらぬロータリーの根幹といえる原理だと私は考えております。

ロータリーの本質である会員同士の親睦を深めるクラブ奉仕と、会員の職業における倫理観を高める職業奉仕の「不易」の部分忘れて、対外的な奉仕活動の「流行」だけを追いかけていると、RCは世の中にたくさん存在する奉仕団体と変わらぬ、単に規模の大きいだけの奉仕団体になってしまうのではないのでしょうか?RIが世界のRCの力を結集して団体奉仕活動に力を入れる現状であるが故に、私ども個々のロータリアンそして一つ一つのクラブはロータリーの原点である例会への出席と会員同士の親睦、そして職業奉仕の理念をもう一度確認する必要があるのではないかと思っております。加藤ガバナーの「ロータリーの原点に学ぶ」という地区テーマは変わりつつあるロータリーの現状への警鐘であり、一人一人のロータリアンへの呼びかけであると私は受け止めています。

ところで、加藤ガバナーは地区方針の中で例会への積極的出席を強調されていますが、できうる限りホームクラブへの出席が重要なことは言うまでもありませんが、そうはいつでも仕事があまく行ってこそそのロータリーですから現役の仕事をされている方にとってはホームクラブへの出席はなかなか思うようにいかないときもあるかと思えます。

最近ではサイン・メーキャップができる他クラブのリストが配布されていて大変便利にはなっていますし、Eクラブではネットでメーキャップもできますこうしたメーキャップは確かに便利ではありますが、メーキャップの場合できるだけ他クラブの例会に出席されることをお勧めします。というのは、RCはRIが定めた標準定款と推奨細則の下、全世界で同じルールで運営されています。

しかしながら、そこは人間が運営・管理する組織ですから例会の進め方とか雰囲気は夫々違いが出てきます。他クラブの例会に出席してみると、自分のクラブとの比較が出来たり、面白い経験が出来たりします。

私の商売は全国の百貨店でお菓子の販売をする仕事なので、クラブの例会日である水曜日は出張で不在が多く、若いころはメーキャップばかりでした。当時のメーキャップは前後一週間以内というルールでしたので、名古屋市内はもちろんの事、出張先の

東京、大阪をはじめ全国各地のクラブでメーキャップをしていました。また海外出張の時も頑張って時間を作り現地でのメーキャップを致しました。時には何故こんなに苦勞してメーキャップするのかと疑問に思ったこともありましたが、特に海外でのメーキャップは楽しい思い出となっています。何処へ行ってもロータリーのバッチ（海外ではピンと言います）を付けていけば初対面であっても仲間として歓迎をしてもらえました。

思い出に残るメーキャップは、初めて海外のクラブを訪問した時で、それはNY郊外の小さなクラブでした。1998年頃ですがインターネットもなく事前に調べた例会場を突然訪問しました。部屋へ案内されてこれはまずいと思ったのは、会議室のような小部屋にテーブルがあって周りに椅子が8脚だけ並べられていました。聞けば会員数が10数人のクラブで、ロータリーと言えば数十人から百人程度と思っていたのでそんな少人数クラブがあると思っていませんでした。慌てて帰ろうとしたとき会員が何人か入ってきて、胸のロータリーバッチを見て何処からと聞かれたので日本からメーキャップに来たというどびっくりされてそれから大歓迎されました。

当日の卓話者は近隣のクラブのロータリアンで、形式ばった例会というより卓話者を囲んだ情報交換会のような例会で日本の業界事情を聞かれるなど本当に楽しいメーキャップでした。面白かったのはニコボックスで、参加者が5ドルずつ出し合ってあみだくじで当たりくじを引いた一人が半分を取り、残りをニコボックスにしていました。

またある時は、訪ねて行った例会場のレストランへ行ったら、昨年までここで開催していたが今年はどこか他へ移ったと言われました。ロータリーは初期に例会場をRotateさせるのでRotary Clubと言ったそうですが、そのクラブでは毎年例会場を変えているとのことでした。出張先のイタリアでメーキャップした時はクラブの幹事さんだけが定刻より20分ほど遅れて現れたのですが、結局それ以外の会員は誰も来ず結局例会は開かれず食事を食べそこなったこともありました。

私が経験した海外メーキャップで一番厳かだったのはロンドンRCで丁度新入会員の入会式があって、ロンドンRCは米国以外で初めて作られたクラブとかで新入会員に会長がクラブの歴史とか伝統を縷々説明していました。大勢のビジターの中で私が一番遠方から来たというのでメインテーブルに座らされて結構緊張した記憶があります。面白かったのはバナーの交換で当日のビジターが十数人次々と登壇してバナーを交換するのですが、びっくりしたのは渡されたロンドンRCのバナーは紙に印刷されたバナーでした。考えてみれば毎週十数人のビジターがあって高価なバナーを用意するとクラブの財政にも影響があるのかなと納得しました。現在ではインターネットで検索して、事前に幹事さんに来訪を連絡しておけばスムーズに海外でのメーキャップが出来ます。

国内のメーキャップで面白かったのは、ある関西のクラブでメーキャップした時のことです。立派なシティーホテルが会場でそれなりのビジターフィーだったのですが、あまりに質素な食事に隣の会員にいつもこんな食事ですかと尋ねました。その会員は、にやにやしなながらあなたは運が悪いといって

説明してくれたのは、そのクラブでは4回の例会の内、1回の食事をうんと粗末にして、残りの3回を豪華にしている。今日はその1回の粗食の例会だと言われました。皆さまも機会があれば色々なクラブへ出向いてメーキャップをしていただくと面白い経験ができると思います。

本日は独断と偏見で「不易流行」という切り口でロータリー活動を分析しましたが、色々なご意見があるかと思いますが、オールド・ロータリアンの戯言としてこんな意見もあるのだとお取りいただければ結構です。最後になりますが、今年度のロータリー年度が鈴木会長のご指導の下、会員の皆さまにとって充実して楽しい1年となることを祈念して講話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございます。

第 1152 回例会 (10月6日) のご案内

イニシエーションスピーチ